

# Venezuelan Cattleya Part 2

## ベネズエラのカトレア その2



カトレア・ピオラセアの自生地



カトレア・ピオラセア



草原にある沼地



満開のピオラセア

ベネズエラで一番色彩の美しいカトレアと言えカトレア・ピオラセアかもしれません。ベネズエラのカトレアとしては珍しく2枚葉系のカトレアでその鮮やかな色は一度見ると忘れることが出来なくなります。

カトレア・ピオラセアはカトレア属の中で一番分布範囲が広い種になります。その北限がベネズエラで、南はアンデス山脈東側の雨の多い低地を中心にブラジルの中部まで自生しているカトレアです。分布範囲が広い

と言うことはそれだけバラエティーも豊かになります。これまで日本でよく見かけたピオラセアはほとんどがブラジル原産の個体です。これらはやや草丈が小振りで、花型は比較的丸く良い形をしています、やや小さめの花がほとんどでした。

ベネズエラ原産のピオラセアは2つのタイプに分けられます。

一つはオリノコ川沿いの高い木に着生するタイプです。これはブラジルタイプに非常に似た株姿と花型を持ち、全体的にコンパクトなタイプです。もう一つはサバンナと呼ばれる草原地帯の水たまり（沼のようなものですが比較的浅い水たまり、深くても1.2 m程度の水深）に生える比較的低木に着生するタイプです。こちらは恐らく南米全域のピオラセアの中でも最大級の株サイズと、花の大きさを誇る個体群です。大きな株は草丈50cmにもなる大株です。花も大柄で一番大きな花は花径14cm近くにもなる大輪も見ることが出来ます。どちらも海拔70m程度の低地に生え、日光に良く当たる場所にしか生育せず、オリノコ川沿いでは川沿いの良く日光が当たる場所、サバンナの水たまりの森でも周囲の明るい日光に良く当たる木にしか着生しません。少し奥に入り森の縁から2 m中に入るともうピオラセアは見られなくなります。

ベネズエラでのピオラセアは6月から7月にかけて開花します。ちょうど雨期に当たり毎日ものすごい量が降る季節で、一滴降り始めたかと思ったらあとは集中豪雨、雷もすごく稲妻が横に走る雷です。雨期の始まりに開花し、その後雨期の期間に新芽をどんどんと伸ばして生育するわけです。気温は年間を通して暑く、雨期は日中30~35度、夜間20~25度の気温です。12月頃から3月頃の乾期になると気温はさらに高くなると言われています。

ピオラセアの生育条件はこのような高温で、生育期の湿度が高く、雨が多く、さらに良く日光に当たる条件です。いざ自分で栽培しようと考えるとちょっと難しい条件かもしれませんが、開花したときの花を見ればその苦労も忘れてしまうくらいすばらしい色彩の花です。色彩のバラエティーはあまり多くはありませんが鮮やかな赤紫色の個体と、非常に珍しいセミアルバ（白弁赤リップ）があります。セルレアもあると言われているのですが現在日本で見ることは出来ない幻の花です。ぜひ一度ピオラセアの栽培にも挑戦してみてください。



M. Stamm

自生地近くに住むコレクター



バラエティー豊かな花



オリノコ川の水辺



川沿いの高木に着生する